

参考資料11

分類名〔病害虫〕

各種薬剤のイチゴうどんこ病に対する防除効果及び残効性

宮城県農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

イチゴうどんこ病は、果実などに発病すると直接的に被害につながる重要病害である。微生物農薬や気門封鎖型薬剤などがうどんこ病に効果を示し、うどんこ病対象として農薬登録されるなど化学合成農薬以外の登録薬剤も増えてきているが、発生してからの効果が主であり、予防防除を考えると化学合成農薬による防除は依然として必要である。ここでは、イチゴうどんこ病に農薬登録されている各種薬剤の防除効果を比較し、その残効性を調査したので、参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 供試した薬剤のうち、散布7日後および14日後で防除価（発病度）が90以上の薬剤は下表のとおりである（表1、図1、2）。

表1 各種薬剤のイチゴうどんこ病に対する防除効果と残効性

一般名	商品名	希釈倍率	防除価90以上		コード
			7日後	14日後	
ミクロブタニル水和剤	ラリー乳剤	5,000倍	○	○	F:3
アゾキシストロピン水和剤	アミスター20フロアブル	1,500倍	○	○	F:11
ピラクロストロピン・ボスカリド水和剤	シグナムWDG	2,000倍	○	○	F:11/F:7
イミノクタジナルベシル酸塩・ピリベンカルブ水和剤	ファンベル顆粒水和剤	1,000倍	○	○	F:07/F:11
ペンチオピラド水和剤	アフェットフロアブル	1,500倍	○	○	F:7
トリフルミゾール水和剤	トリフミン水和剤	3,000倍	○	○	F:3
フルチアニル水和剤	ガッテン乳剤	5,000倍	○	○	F:U13
水和硫黄水和剤	イオウフロアブル	2,000倍	○		I:UN, F:M02
ピリオフェノン水和剤	プロパティフロアブル	3,000倍	○		F:U08
トルフェンピラド水和剤	ハチハチフロアブル	1,000倍	○		I:21(A), F:39
イミノクタジナルベシル酸塩水和剤	ベルコート水和剤	4,000倍	○		F:M07
メバニピリム水和剤	フルピカフロアブル	2,000倍			F:9

3 利活用の留意点

- 1) 試験は育苗トレイを用い、1回目の薬剤散布後、さらに2回目散布後に自然発病株を各トレイに調査時まで設置し間接接種とした。また、3回目散布後に所内で発生しているうどんこ病菌を用いて孢子懸濁液（ 1×10^3 個/ml）を作製し噴霧する接種試験で実施した。
- 2) 薬剤はハンドスプレーで散布し、4回散布後の防除価である。展着剤は加用しなかった。薬剤散布後は頭上灌水で管理した。
- 3) 試験で発生したうどんこ病菌の薬剤感受性は不明であり、ほ場で発生するうどんこ病菌の薬剤感受性によっては、防除効果が異なる。
- 4) 各防除薬剤は耐性菌の出現を避けるため、連続散布はせずに、ローテーション散布をする。特にQoI剤、SDHI剤、DMI剤（混合剤を含む）は耐性菌出現の報告があるため注意する。

（問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話022-383-8125）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

食料生産地域再生のための先端技術展開事業「施設園芸栽培の省力化・高品質化実証研究」
(平成24年度～平成29年度)

2) 参考データ

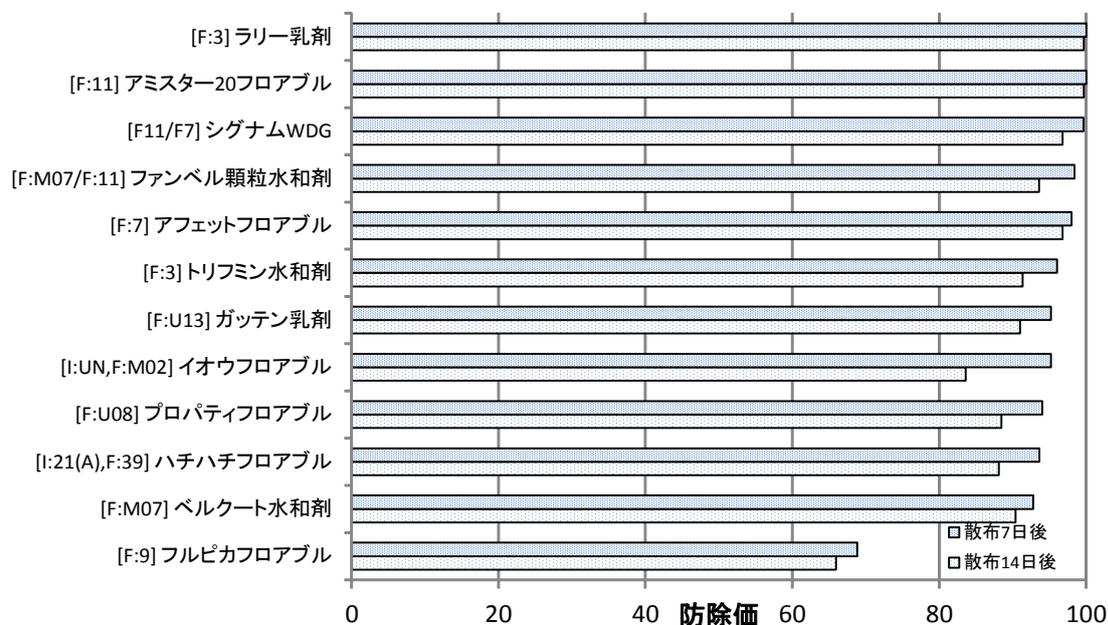


図1 各種薬剤のイチゴうどんこ病に対する防除効果と残効性（発病度）

注1) 供試品種「とちおとめ」

注2) 無散布の発病小葉率：23.1%

注3) 薬剤散布日：平成29年2月3日，10日，20日，3月3日

注4) 調査月日：3月10日（最終散布7日後），3月17日（最終散布14日後）

注5) 薬剤名の前はFRACまたはIRACコードで，同一コードを含む剤は同系統であることを示す

3) 発表論文等

なし

4) 共同研究機関

農研機構中央農業研究センター，野菜茶業研究部門，福島県農業総合センター，パナソニックライティングデバイス（株），アリスタライフサイエンス（株）